

人権協シンボルマーク



いろんな人と人とのつながり、
ふれあいを美浜のMと波で
イメージしました。

ふれあい

美浜町人権尊重啓発協議会会報

第69号

発行：令和元年10月23日
(年3回発行)

編集：人権協広報部会

連絡先：美浜町生涯学習課

TEL 32-1212

FAX 32-1222

E-mail: jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp

第3回町民人権講座

映画「万引き家族」

7/sat
27

7月27日(土) 第3回町民人権講座として、映画「万引き家族」が上映されました。TV放送後にも関わらず、約300名の方が来場されました。

この映画は、年金暮らしの祖母・初枝、日雇いの父・治、パート勤めの母・信代、風俗で働く亜紀、学校に行かず父と万引きして暮らす翔太、そして実親からDVを受け保護されたりん(ゆり)の、誰ひとり血縁関係のない6人の柴田家家族の物語である。

柴田家は子どもに学校にも行かせず、万引きをさせて生活をしている反面、貧しいながらも、家族そろって夕飯を食べたり、親子でお風呂に入ったり、みんなで海水浴や花火を楽しむなど、本物の家族のように幸せに生活していた。そんな柴田家が翔太の万引きの発覚をきっかけにバラバラに崩壊した。

現代において、血のつながりのある親子関係、家族関係の希薄さは社会問題です。柴田家は、本物の家族から必要とされなくなった者たちが出会い、家族として暮らす中で、人と人との絆を深め、「家族」となりました。最後はバラバラになってしまいましたが、柴田家の一員になれたことで、誰もが自分は一人ではないと生きる希望を持ち救われたのではないのでしょうか。家族としてあるべき絆を拾った「万引き家族」を通して、家族の絆やあり方を考えさせられる感慨深い作品でした。



絆ってなんだろうなって考えさせられました。血縁やよび方じゃないんだろうな。それより大切なものがあるんだなと感じました。りんやしょうた、あきの心にどんな思いがのこっていくのか、あのおわり方から考

家族とはどういうものなのかについて改めて考えさせられました。血のつながりは一番大切なのか、それとも他人でも気持ちのつながりがあればよいのか、色々な形があるなと思います。児童虐待や高齢者の孤独死などが問題となっている中で、自分も家族の一員として責任を感じました。

本当の家族って何だろう。血のつながり？法による規定？最後の“りん”が遠く見つめることでそれが分からなくなった。ただ、万引き家族が言う「本当に好きならたたかかない。抱きしめるんだよ」って言葉には真実味を感じられると思った。

見たいと思っていた映画ですが、見逃してしまったので友人に話したところ「なびあす」での上映を教えてくださいました。町外からお邪魔しましたが、美浜町の人権尊重啓発活動が大変積極的に町民の方々に浸透している事を感じ、取り組みに感心しました。家族、親子、人々との絆、愛情のあり方、幸せとは何かなど、色々なことについて考えさせられる映画でした。ありがとうございました。

写真で伝える、世界と東北の今

第4回町民人権講座

9/fri 27

フォトジャーナリスト 安田菜津紀さん



今回の講座の講師は、フォトジャーナリストの安田奈津紀さん。16才の時に「(NGO) 国境なき子どもたち」が取材のために世界各地に派遣する「友情のレポーター」として、カンボジアで貧困にさらされる子どもたちを取材したことが今の活動のベースにあると語りました。

カンボジア・シリアを中心に東南アジア・中東の現地を感じたことや、戦争・貧困・人身売買などが日常的に子どもたちの身に起きていることを、写真を見せながら説明してくれました。

長年取材をしていく中で、遠い国での出来事が身近な問題として感じられるようになり、自分にできることは何か、直接的に支援できることがあるのではないかと考えたときに、地元のNGOの職員から、「近くにいってもできることは限られている。直接的でないからこそできることがある。人にはそれぞれ役割分担があり、それに優劣はない。」と言われたことが心に残り、フォトジャーナリストとして「伝えること」が自分の役割だと感じたそうです。

2011年3月11日に起こった東日本大震災では、安田さんの夫の故郷である陸前高田市で、養父が勤め先の病院で被災し、義母は愛犬とともに津波に巻き込まれ亡くなったことにふれました。町が波に引き回され、今まであったものがなくなった。7万本あった高田松原がなくなった。ここで撮られた「奇跡の一本松」は安田さんが撮った写真で、皆さんも目にしたことがあると思います。

安田さんが貧困や紛争、災害の取材を続けているのは、たとえ直接的に命を救えなくても、写真を外に発信し「伝える」ことを通して、みんなに自分の思いを共有してもらうことが自分の役割であると語りました。

美浜から世界へ。今私たちにできること。「役割分担」を伝えてくれた安田さん。伝えられた私にできることは？私の役割は？教えていただきました。私の足元から輪を広げること、シリア、陸前高田、そして…。まだまだありそうです。しっかり、とらえて自分が動けるところで動いていきたいと思ひます。

「人には役割がある」「小さくともそれぞれの役割を果たそう」と言葉が印象的だった。東北の話もよかった。だれでも出来る事がある。すばらしい安田さんのお話でした。ありがとうございました。

安田さんのお話そのものにもすごく心に残るものが多いりましたがそれと同時に1枚の写真から受け取るメッセージも多くありました。たとえ遠く離れた地域の事でも。心を馳せ、考えることが大切なのだと思ひました。

私たちがニュースで断片的にしか知らないシリアや岩手の事を伝えてもらうことにより、認識が深まりました。みんなが知ることが大切、伝えていく事が大切。私も今日聞いた事を知りあいに伝えていこうと思ひました。

人権のつどい2019

Profile

北海道出身のシンガーソングライター。

17年の下積みを経て、2017年4月NHKみんなのうた「お弁当ばこのうた～あなたへのお手紙～」を収録した、メジャー第一弾ミニアルバム「うた弁」を発売、ロングヒットとなる。

人の心に寄り添いながら作る歌は、全国のショッピングモールを回り歌い続け、出会った人々の人生に触れ、涙に触れて、生まれた。“ショッピングモールの歌姫”と呼ばれ数々のメディアでも取り上げられ、「サクラ～卒業できなかった君へ～」では第50回日本有線大賞新人賞を受賞。

2018年3月「情熱大陸」で半崎美子の歌や生き方そのものが取り上げられて反響を呼んだ。

自分の歌が自分自身よりも長生きすることを願い、歌が教科書に載ることが一つの夢である。

入場無料

【全席自由】

入場整理券が必要です

整理券のお求めは、なびあす・各公民館(山東・耳・南西郷・北西郷)まで ※1回でのお渡しは、お一人4枚までとさせていただきます。

整理券配布中!

半崎美子トーク&ライブ

入場無料

2019 12/7 土

14:00開演 13:30開場 (講演時間 約1時間30分)

美浜町生涯学習センター

なびあす

福井県三方郡美浜町郷市 29-3



人権協部会紹介 その1

推進団体学習部会

●推進団体学習部会の主な活動

- ・ 集落代表評議員研修会の開催
- ・ 集落での人権学習の推進
- ・ 地域づくりを行う集団や団体の応援



●集落推進委員研修会の様子

集落の代表の方に参加してもらい、各集落が自主的に人権学習会を行うことができるようにみんなでお話し合う研修会です。今年度は参加者全員でDVDを視聴した後、グループセッションをしました。

この会の後、それぞれの集落で人権学習会が行われます。人権協のスタッフや行政の担当者が学習会を計画するのではなく、集落毎に学習会を計画して実施していることが、美浜町での集落別人権学習会、最大の特徴です。

昨年度は35集落中、28集落の実施がありました。推進団体学習部会では、全集落で学習会が実施されるよう、これからも協力していきたいと思っています。

大塩友之部会長より

楽しい催しを計画して、地域の人が集まることは比較的簡単なことだと思います。人権学習会はテーマとして堅苦しいことかもしれません。しかし、人権というのはすべての人が安心して生活するために必要なものです。

人権学習会で人が集うようになれば、その村づくり、人づくりもさらに素晴らしいものになるのではないのでしょうか。人権学習を進めることにより、皆さんの村や町が、すべての人に住みやすい場所に繋がります。地域の皆さんに少しでも人権について興味を持ってもらえるとうれしいです。



◎今号より、人権協の7つの部会について少しずつ紹介していきたいと思っています。興味を持ったり、部会の活動に参加してみようかなと思ったりした方は人権協事務局（生涯学習課TEL.0770-32-1212）までご連絡下さい！ウェルカムです！

福井県は、幸福度ランキングや共働きの率で全国1位、3世代同居率、学力・体力テスト等でも毎年のように上位に名を連ねており「幸福度日本一」の県をうたっています。

そうした中、8月11日付の福井新聞で次のような記事が掲載されました。

「福井の社会『嫁の犠牲の下に成立』」。この記事は、福井新聞と日立京大ラボの共同研究プロジェクト「ふくい×A1 未来の幸せアクションリサーチ」で募集している県民の声をピックアップして、問題提起を行っています。

共働きの率日本一を支える女性からは、「幸福度日本一の福井県、違和感しかない」「女性が一生懸命働いて、家計を支えて、家のことをするのが当たり前。女性にとっては不幸福度日本一の県」と男女不平等を訴える声が上がっていました。また、家族間や地域間での密なコミュニケーションについても「助け合い」につながっている一方で、「息苦しさ」を感じるといった声もありました。

全国的に、少子高齢化や人口減少の進行、定年退職年齢の引き上げ等により、これまでの家族構成や地域社会の在り方、働き方等が変わりつつある現代。福井県、ひいては美浜町でも、祖父母が子どもの面倒を見て、両親は共働きというシステムが成り立たなくなっているのかもしれない。高齢化による介護負担や若者の減少による地域での役割等の増加は、今を生きる人々の深刻な問題となっています。

こうした問題を、解決する方法はすぐに見つからないのかもしれませんが、長い時間をかけて築き上げてきた「幸福度日本一」のスタイル。これを変えていくには、まず人々の意識改革から始めないといけないと思います。

「幸せ」は人、家族、地域等で、それぞれの形があり、こうすればみんなが幸せというものはありません。個人として、家族として、地域として、社会として、それぞれの立場から、時代に合わせた「幸せ」の形を見つけて出すために、話し合い、考えていく必要があると考えます。

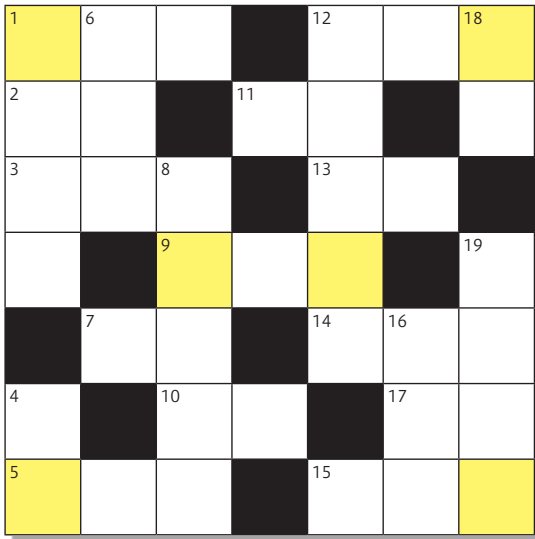


「ふれあい」第68号をお読みにになった読者の方より、多数のおたよりが寄せられました。ありがとうございます。紙面の都合上、その中のいくつかを紹介しします。これからもみなさんの「声」をお届けいただけると幸いです。

◆「人権コラム」欄にも書いてあったように、高齢者の運転による事故が多発しています。私も車がないと生活に支障を来しますが、老人でも事故を未然に防げるような車作りを是非メーカーさんをお願いしたいです。ただ、それで事故がゼロに成ることはありません。老いた我が身自身が十分運転上の注意をし、他人様に迷惑をかけないことに徹することが基本だと心得、そのことが「人の命を護る」という人権意識を高めていきたいと思っています。(M・Jさん)

◆編集後記の口角の話が、身に覚えがありすぎて笑ってしまいました。おしゃべりが上手になってきた息子に、「ママ、いつも怒ってるね」と言われて反省する毎日です。母の至らなさを笑いに変えてくれる彼に感謝。(F・Kさん)

◆町民人権講座には、今の自分の生活にはあまり身近でないと感じるテーマも、著名な方を講師として招いており、参加できたら良いなと思う講座ばかりです。平日の夜間は主人も帰りが遅く、子ども達が小さいので参加が難しく残念だなと思うのですが、「ふれあい」で講座の内容を知ることができ、有難く思います。来年度小学生になる長男とも、少しずつ身の回りの人権について考えていく機会が持てたらいいなあと思っています。今後ともよろしくお願い致します。(N・Hさん)



■ 応募方法 ■ (郵送、FAX、E-mailいずれかでお願いします)

- 答え・住所・氏名を別紙とじこみ用紙に書いて下記までお送り下さい。
〒919-1141 美浜町郷市29-3 生涯学習センターなびあす内 人権協事務局
※ FAX(0770-32-1222) E-mail(jinkenkyo@town.fukui-mihama.lg.jp)
- 必切は、令和2年1月31日(金)です。(当日消印有効)
- 正解者の中から抽選で、図書カードをお送りします。
- 前号の人権クロスワードの正解は「アイジョウ」でした。
たくさんのご応募、ありがとうございました。正解者は14名でした。
今回の当選者は 藤中 薫さん 竹川 紀代子さん 黒川 智弘さん
丹羽 紘美さん 沢田 ツルエさん
以上の皆さんです。おめでとうございます!

人権クロスワードパズル

黄色のわくの中の文字を使ってできる言葉が答えです。



タテのカギ

1. 「外郎」と書く、米粉や小麦粉等を使った和菓子。
4. 70歳のお祝い。
6. 家畜などを飼いならすこと。
8. 銅などの表面に生じる緑色のサビのこと。「緑青」と書きます。
12. 今年7月～9月の間、美浜町でこの日は8日ありました。
16. 細い角材や竹などを、碁盤の目のように組み合わせて作った建具のこと。
18. 地球の約3割を占めています。
19. 金銭などを差し引くこと。

ヨコのカギ

1. 茨城県にある青銅製立像としては世界最大(全高120m)の○○○大仏。
2. 逆らわずに他人の言いなりになるさま。○○諾諾。
3. 陶芸をする時に回します。
5. 植物の葉の表面にある二酸化炭素等の取り入れ口。
7. 賃借した金銭などに対して、一定の割合で支払われる金銭のこと。
9. 害を与えるものを追い払うこと。
10. いざという時のためにもう一つ。
11. 割、分、厘、○○、糸、忽…
12. すぐ近くのあたりのこと。
13. 「風呂敷をほどけば柿のころげけり」(作：正岡○○)
14. あとをつけること
15. 図書館に置かれる専門的職員のこと。
17. 姓、または苗字のこと。

編集後記

◆詩人、阪田寛夫さんの『鬼の子守唄』を紹介しします。◆鬼ヶ島の鬼の子はやっぱり夜ふけに泣くのです／こわいよ かあちゃん／桃太郎がきたよ／はちまきしめて／のぼりもたてて／ガッパ ガッパ／海からきたよ／ねんねよ ぼうや／桃太郎もねんねだよ／西の空まっくろけ／東の空まっくろけ／ガッパ ガッパ／こんやはさむい／鬼が島の鬼の子はやっぱり夜ふけに泣くのです◆これは攻められる側から描いた物語です。みなさんはどう捉えるでしょうか?◆正義の味方桃太郎も鬼の子から見れば、自分たちをやっつけにくる悪党にしか見えない。鬼ヶ島にもきっと平和や幸せがあったはずですが、その平和を壊す権利は誰にもないはずなのですが、些細ないざごさから、鬼が人間を攻め、人間が鬼を攻める。その裏側で必ず涙を流すもの

がいます。鬼だから…、人間だから…、という理屈はどうでしょう。◆『○○だからしょうがない。』という文章の○○に入れる言葉を考えてみて下さい。入れる言葉によってそれはやさしさにもなれば凶器にもなる、ともすれば命を奪うことにもなりかねない文章です。◆ここに気がつけるために必要なのが「人権感覚」なんだろうと思います。そのアンテナを高くとはよく言われることですが、実はこのアンテナ、ただ気をつけていても高くなりません。いろんなことを知り、いろんな立場に自分を置き換え、いろんな人と出会う、そんな繰り返して高くなっていくのです。◆だんだん堅くなっていく頭と心をなんとか柔らかくしたいと思っている私です。(西)